

「はい！こちら菊池市消費生活センターです！」

問い合わせ先 菊池市消費生活センター ☎0968(36)9450
平日午前10時～正午、午後1時～午後4時 商工観光課入り口

太陽光発電

太陽光発電やその他の再生可能エネルギーの導入は増加し続けていますが、同時にトラブルも増えており注意が必要です。特に太陽光発電に関しては設置補助金があり、余剰電力買い取り制度など、国や自治体の政策として導入が推進されています。公的補助金を受けるには、事前に申請書を提出し交付決定を受けてから工事を開始する必要があります。古い家屋の場合は、補修補強が必要な場合がありますので、専門家の診断を受けた方が良いでしょう。また樹木や山などによる影の影響で発電量に影響がないか確認しましょう。屋根に設置した太陽光パネルに反射した光が近隣家庭に迷惑になることもあります。住宅用の発電システムのキロワット当たりの平均価格は、中古住宅の場合約60万円です。3、4割が目安となるので200万円以上が必要になります。現在のところ、余剰電力買い取り制度で電力会社が買い取ってくれますが、各家庭の電力使

用事情はそれぞれ違い、余剰電力がどの程度になるか十分な検討が必要で、この制度と公的補助金について、「ローンは売電収入によって負担にならない」「公的補助制度がもうすぐなくなる」など誤解を招く恐れのある説明をして設置を急がせる業者もありトラブルとなっています。また、工事の際に屋根に損傷を与え、後になって雨漏りが起こるなどのトラブルもあります。契約する前に、すでに設置した人に聞いたり、自分で調べて複数の業者から見積もりを取るなどすると良いでしょう。訪問販売や電話勧誘販売で急がされて契約すると、後で後悔することにもなりかねません。太陽電池の耐用年数は20年以上といわれていますが、発電されるのは直流電流であり、交流電流に変換する必要があります。そのための装置が必要ですが、その耐用年数は10年から15年程度です。設置後も数年に一度の点検が必要で、交換が必要になることもあります。契約の際には保障・点検などについても、良く確認しておきましょう。

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎0968(23)1155

菊池遺産展

期間 7月6日(金)～7月22日(日)
平成21年度から平成23年度までに認定された、菊池遺産全64カ所の写真を展示します。



竹細工展

※同時開催：菊池南中学校美術部作品展
期間 7月24日(火)～8月19日(日)
県伝統工芸館で学んだ人々の力作を展示、販売します。生活の中で息づく竹細工をぜひご覧ください。また、体験もできます。材料代1作品500円です。お気軽にご参加ください。



開館時間 午前9時～午後6時
※期間中の休館日はありません

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

三人展

期間 ～7月16日(月) 米田幸一
写真好きな3人がそれぞれに撮影した風景、ホテルなどの写真を展示しております。

村上誠写真展

期間 7月18日(水)～7月29日(日)
Team 磯太郎 村上誠
今回は過去の写真展でご要望が多かった海上自衛隊の艦艇を展示し、主にヘリ母艦「ひゅうが」をご紹介します。

まちかど資料館企画展 大正・昭和レトロ展

期間 ～7月29日(日)
古き良き時代大正、希望を胸にがむしゃらに頑張った昭和の時代、ちょっとだけ立ち止まって大正と昭和の風を感じてください。レトロ館、千年の風館(土・日のみ)で同時開催。
※休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)



人権同和教育シリーズ ⑧
菊池北中学校3年 中川 透さん

乳児ふれ合い体験で学んだこと
ぼく達の学年は、5月に乳児ふれ合い体験をしました。ぼく達の活動のために、総勢18組もの母親と赤ちゃんが集まってくれました。各クラス6組ずつの母親と赤ちゃんで始まりました。赤ちゃんは、みんなそれぞれ個性があって、十人十色という言葉が一番合っていました。人見知りをしてすぐに泣き出す赤ちゃんもいれば、おとなしくて、ぼく達が着がえをさせても落ち着いている赤ちゃんもいました。ぼくが赤ちゃんを抱くと赤ちゃんには泣かれたけど、周りの母親や保健師さん達からは、上手な抱き方だと言ってもらえました。ぼくは、この言葉をもらった時にうれしく思いました。
ぼくのいとこは年下の子どもが多く、小学生や園児、なかには赤ちゃんもいます。昔から赤ちゃんを抱っこする機会が多かったので、少しは慣れていた。乳児ふれ合い体験で抱っこした赤ちゃんが、いとこの赤ちゃんとなんか違ってかわいく見えました。
かつて、ぼくのいとこは7人いま

した。お盆の時や年末年始には、親戚同士の集まりでよく顔を会わせていました。でも、今から約3年前の夏に、いとこの一人が亡くなりました。最初に知らせを聞いた時は、自分の耳を疑いました。少し前まで会っていた人が死んだことについて、全く実感がわきませんでした。いとこの通夜と葬式の時に会った、いとこの母親と父親と兄弟は、みんな泣いていました。通夜に集まった先生も友達も家族もみんな泣いていました。ぼくも泣かないと思っていたけど、自然に泣いてしまいました。その時は、悲しいような苦しいような何とも言えない不思議な気持ちでした。ぼくは、このいとこの死を決して忘れたいと思いません。
それから約3年経ち、亡くなったいとこを含めて8人目のいとこが誕生しました。生まれた時はうれしくて、とても楽しかったです。やっぱり人は死ぬより、生きることや生まれることの方が自分もうれしいし、周囲の人達もうれしいと思えます。



勝手な考え方だけど人間の気持ちというのは、こういうものだと思います。
最後に、ぼくはこの乳児ふれ合い体験でいろんなことを学習しました。命の尊さについてや、赤ちゃんの着がえを通しての接し方など、さまざまな気付きをこの学習のまとめとしたいと思います。
ぼくのいとこの話について、一人死んで一人生まれたことを、プラスとマイナスでゼロというように考えてはほしくないです。人は一人ひとり同じ命の重さがあるので、生まれる新しい命も、死んでいく命も、同じくらいの視点で見つめていきたいです。そして、今から先新しく誕生する命を温かく見守っていききたいと思います。

ふるさと緑の便り
菊池グリーンツーリズム
問い合わせ先 きくちふるさと水源交流館 ☎0968(27)0102

グリーンツーリズムや地域づくりに関わるボランティア活動の支援
菊池市のグリーンツーリズムの拠点である「きくちふるさと水源交流館」では、地域の力を借りて農業・自然体験の受け入れを行っています。その中で大切な役割を担っているのがボランティアです。若いボランティアとの出会いは関わった人・地域を元気にします。長期・短期、国内外を問わず募集しています。
申込条件 高校生以上の個人またはグループ(未成年者は保護者の同意が必要で)

韓国発見シリーズ ⑥
426年前の恋文

1998年4月、慶尚北道中部の安東で昔の(土葬した)お墓を他所に改葬していたとき、驚くべき副葬品が発見された。最初、若い女性の衣服が次々出たので女性の墓と思った。ところが服を取り出すと男性の遺体が発見された。その遺体の胸は、韓紙で覆われていた。
その覆っていた韓紙には「ウォニ(子どもの名前)のお父さんへ。丙戌年(1586年)6月1日、妻より」と書いていた。なんと412年ぶりに世間に公開された妻から亡くなった夫への手紙だった。

韓国発見シリーズ ⑦
426年前の恋文

自分の髪で草履を作った。しかし、夫は草履を履くことなく亡くなってしまった。
この驚くべき副葬品の発見で人々の関心は亡夫は勿論、哀切な愛の手紙を書いた妻に向けられた。「日々あなたと共に寝起きしてあなたに尋ねたでしょう。他の人たちも私たちのようにいとおしく愛し合っているでしょうか?」流麗な文体の恋文を書くほど見聞広く愛に率直だった女性。初めてこの記事を読んだ時、男女の愛情表現がタブー視されていた426年前にこれほど率直な愛情表現があったことに驚いた。切なく亡き夫を偲ぶ女性の愛に自然に頭が下がった。



登録後にご希望を伺い、内容を日時を調整します。気軽にお問い合わせください。
ボランティア登録方法 来館の登録を基本としていますが、電話、電子メール、FAX、郵送でも可能です。
メールアドレス kran@sugen.org
FAX 0968(27)0107
宛先 〒861-1441 菊池市原1600番地

「夫婦は一体だ」という言葉がある。後悔を残さないよう426年前、遺体の上に置かれた妻の恋文のように率直に話そう。「小さな事に忠実な人は、大きい事にも忠実である」という格言のように日々感謝したら、たとえ明日永遠の別れが来ても悔いは残らないだろう。426年前の女性にできたことが、今の私たちにできない理由はどこにあるのか。